

昭和三十四年十月二十一日 〆講演

「柔道と私」——三船十段講演要旨——

三船十段は七十七才の高齢にも似ず、実に若き壮年の如く、意気と熱を持つて自分が歩まれつつある柔道の道と話されたが、先生の弁たるや東北なまりで東京生活六十有余年の人とは思えない、なまの東北弁で語られた。実は先生

は、この東北弁こそ郷土と連がる唯一の道であり、また、郷土の誇りでもあるので、自分はどこへ行つてもこの東北弁を用いているので、日本人は日本語で語るることによって日本に連がり、生きるのであると、郷土と祖国に対する言葉の有難さを語った。次で吾人は健全な身体を持つことが何よりも大切であり、先ず己を完成し、世に裨益することこそ柔道の目的とするところであると柔道修業の目的を明らかにし、己を完成するためには、肉体と智識と真理に対して、常に心を開き、この三つのものが一体となつて外に現わされるときに態度となる故に、技を習得せねばならないが、技とは科学的研究の上になつた技術的練磨にほかならないから、絶えず研究と練磨に励まねばならないと語り、先生自らが常に講道館に於て今もつて習練し研

究されているのであり、また、世に裨益する点に於いても、ロータリアンとして国際的に活躍し、また幾多の大学の柔道教授として多数の人材を育成し、世に送り出されて居られ柔道の道に生きる者の生きた鑑となつて居られる。

また今までは柔道の教えには相手が押して来たら、それにさからわずに退がり、相手が引いた場合にはその方向に押すことが大切とされて来たが、先生はどうもこの点に対して疑問があり考えつづけて来たが、十年程前についてこの疑問を解くことが出来た。それは相手が押して来たら回ること、引いた時には斜めに押し反すことである。これは人生の実際問題から考え出した真理で、どうしてもこれ以上後に引けない時がいくらかもあるので、その時こそ回ることが即ち先をそらすことが唯一の道だと、柔道の道を実生活の道に生かすことの大切なるを諄諄と説かれ、時の去り行くのも知らず語りつづけられた。

(西寮々長・植田記)

柔道家 三船久蔵先生

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。